

17 初任三景

かなり遅ればせの話題となってしまいましたが、すでに学校だより 4 月号でご案内のとおり、本校には初任教員が 3 名着任しました。それぞれには指導教員という形でベテラン教員が指導にあたるほか、各学年の先輩教員やメンターとあって、比較的経験年数の浅い教職員で構成している研修メンバー内での相互研修(学び)を重ねながら、教職員としての力量アップに努めています。

初任者 3 名は、4 月に着任し「さあ先生としてのスタートラインだ！」と意気揚々だったはずですが、感染拡大防止のために 2 か月間「待ち」の状態でした。その間も先輩の教職員から様々なことを教えてもらったり、自分で模擬授業とって他の教職員に児童役をお願いして授業を試みたりと来るべき日に備えていました。

ようやく今週から全員がそろっての学級開きとなり、初任教員 3 名もそれぞれの教室で、四苦八苦しながらも子どもたちとともに学びをつくっています。ある教員は社会科の学習づくりのために実際に自分の足でまちに出かけ、子どもたちの見るもの子どもたちが聞くものを事前にキャッチしようとしたり、また別の教員は、子どもたちの野菜づくりがスムーズにいくよう、暑い中、畑をおこし野菜作りのポイントを先輩から教わったり、また別の教員は、これまでの経験を活かしながら、子どもたちの学びのためにさらに必要なことや学年内で共有しなければならないことを積極的に確かめたりと、4 月当初に希望にあふれていた姿がそのまま今も継続しています。私も老骨に鞭打って負けないようにしなければと思う今日この頃です。